

---

社会医療法人 ジャパンメディカルアライアンス 海老名総合病院  
コマンドセンター導入事例

---

病院機能：高度急性期病院

病床数：479 床

看護部長：小谷文恵

病院概要：

県央医療圏において唯一の救命救急センターを有し、地域全体の約 4 分の 1 の医療サービスを担っています。

訪問日：2025.12.3



---

### コマンドセンター導入の背景

医療需要は緩やかに増加を続けており、生産年齢人口が減少傾向にある中でも、医療の質と生産性の向上は不可欠です。

このような状況を受けて、新棟の新設を機に病床編成や職員・患者の導線を見直し、医療の質と量のさらなる向上を目指して、組織全体の DX に取り組むこととなりました。その中核として導入されたのが「コマンドセンター」です。

---

### アナログ時代の課題

コマンドセンター導入以前は、以下のような課題がありました：

- 病床稼働状況の把握と情報共有はホワイトボードを用い、毎朝 30 分以上の対面ミーティングが必要でした。
- 電子カルテのデータ集計・更新作業はすべて手作業で行われ、空床情報の更新は 1 日 2 回のみ。リアルタイムではなかったため、外来からの問い合わせが多数発生していました。
- 病棟ごとに病床運用の認識や定義が異なり、患者の受け入れに支障が出ることもありました。
- 「今日は新人が多いので受け入れ不可」「手術が多くて対応できない」など、口頭での情報が錯綜し、ベッドコントローラーが混乱する場面も多く見られました。

このような状況では、ホワイトボードによる手作業でのベッドコントロールには限界があり、現場からは悲鳴が上がっていました。

---

### コマンドセンター導入の決断

こうした課題を解決するため、「リアルタイムで根拠ある情報を可視化したい」という強い思いのもと、コマンドセンターの導入が決定されました。

導入にあたっては、現場から病院長に対し「病床稼働率を上げて、きちんと利益を出すから導入してほしい！」と直談判。現場の声を大切にする病院長の理解のもと、「利用率を上げ、成果を出す」という約束の上で導入が実現しました。

---

## コマンドセンターの使用状況と導入効果

### 院内データの一元化とリアルタイム可視化

海老名総合病院では、電子カルテや検査システムなどの院内データを一元化・リアルタイムに分析・可視化できる「コマンドセンター」を導入しました。これにより病床の有効かつ適正利用また病床管理の負担軽減、退院支援調整の早期介入が可能となりました。

---

## 4つのタイルの導入と活用

### 1. Capacity Snapshot

目的：リアルタイムでの病床稼働状況の把握と情報収集時間の短縮

目標：病床利用率 90%の達成、高機能病床の有効活用、緊急病床の確保

主な情報項目：感染状況、病棟、稼働病床数、患者数、病床利用率、重症度、個室、性別、空床数、入退院数・転入出数など、電子カルテと連携することで、患者情報を都度開かずとも確認でき、緊急入院の受け入れや高機能病棟から一般病棟への転棟調整がスムーズに行えるようになりました。

### 2. Discharge Tasks

目的：退院支援の質向上と DPC 期間内での退院促進

目標：平均在院日数の削減、退院支援部門の早期介入

主な支援項目：入院前の生活状況、介護保険や医療処置の有無など退院阻害要因とリハビリ状況などを可視化し、必要な支援を適切なタイミングで提供できる体制を整えました。

### 3. NEWS Scoring

目的：重症化リスクの可視化と適切な病室配置

主な評価項目：呼吸数、SpO<sub>2</sub>、血圧、脈拍、意識レベル、酸素の有無を可視化し、NEWS スコアを自動算出しスコアの変動がわかり、急変リスクの高い患者を常時把握できるようになりました。

### 4. Staffing Forecast

目的：看護師の業務量の可視化と業務負担の平準化

主な項目：日勤者数とケア、出棟、移動の件数をスコア化と転倒スコア、身体拘束の有無、介助状況を状態係数として忙しさを数値化し、業務の偏りを予測・調整しています。

---

## その他：Region Critical Resource

さがみメディカルパートナーズ連携推進事業とし、各病院の患者数と空床数、利用率を可

視化し共有したタイルを導入し転院調整時に活用しています。

---

### 導入後の変化と成果

- 医業収益が前年比 118%に上昇
- 病床稼働率が常時 90%超を維持
- 救急車応需件数が年間 1 万台を突破
- MSW 介入件数が前年比 134.2%に増加
- ベッドコントロールミーティング時間の短縮
- 緊急入院調整時間の短縮
- 退院支援に対する意識の向上



---

### 今後の課題と展望

- 急変や重大インシデントのさらなる減少
- 適正な人員配置と支援体制の強化
- 部署ごとの超過勤務時間の平準化

---

### おわりに

コマンドセンターはあくまで「ツール」であり、そのツールを使って人がどう変わるかが最も重要です。

「ベッドがない」という漠然とした感覚が、可視化によって払拭され、患者に適した病棟配置が可能になりました。スタッフの意識も変化し、疾患にとらわれず、患者に最適な治療を提供する姿勢が根付きつつあります。

今後も「忙しい」という抽象的な課題を、システムを通じて具体的に解決し、限られた資源の中でより良い医療を提供していきます。

※コマンドセンターは、すべてのタイルを一括導入する必要はありません。必要なタイルを1つから導入可能ですので、他の医療機関にもぜひご検討いただければと思います。

